

各教科の評価・評定について

本校の各教科の評価、評定のCuttingポイントを下記のように決めておりますのでお知らせいたします。

記

1. 観点別学習状況の評価

中学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現の状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入します。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| A：十分満足できると判断されたもの | → 達成値が最高値の80%以上 |
| B：おおむね満足できると判断されたもの | → 達成値が最高値の50%以上80%未満 |
| C：努力を要すると判断されたもの | → 達成値が最高値の50%未満 |

(例) ① 数学 数学への関心・意欲・態度

この観点は、数学的な事象に関心を持つとともに、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとすることを評価します。したがって、挙手の回数や課題の提出状況などによって評価するのではなく、学習の様子の観察、ノートやワークの記述、発言の内容などを基にして評価します。

評価の場面の例：授業観察、ワークシート、提出物の内容

② 理科 科学的な思考・表現

この観点は、知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等が身に付いているか、その実現状況の評価します。

問題を見いだし観察・実験を計画する学習活動、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を利用して考えたり説明したりするなどの学習活動において、観察や実験後の考察が論理的に矛盾していないか、レポートの内容が客観的であるか等の評価します。

評価の場面の例：実験・観察における考察、授業での発言内容、レポートの内容・表現、定期テスト

③ 美術 創造的な技能

この観点は、生徒が材料や用具の特性を生かし、自分の意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している状況の評価します。制作が進む中で徐々に発揮され、作品にも具体的な形となって現れます。そのため制作途中の様子や作品を中心に評価するとともに完成作品も再度評価し、生徒の「創造的な技能」の高まりを読み取ります。また、「創造的な技能」は、単に材料や用具を用いることの評価ではありません。

生徒が創造的に技能を発揮している具体的な場面を通して評価します。

評価の場面の例：ワークシート、作品（制作途中の様子も含める）、定期テスト

④ 数学 数量や図形などについての知識・理解

この観点は、生徒が数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識として身に付けているか、その実現状況の評価します。例えば、「等式の性質を適切に用いて、一次方程式の解き方」を「理解し、知識として身に付けているかどうか」を評価し、「一次方程式を正しく解くことができるかどうか」は「数学的な技能」の観点になります。学習の結果だけでなく、学習の過程における状況も評価します。

評価場面の例：定期テスト、小テスト、ノートの記述

※評価対象の資料は、定期テストのみとは限らず、いくつかの資料を積み重ねて評価しています。

2. 評定

各教科

中学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、5段階で表示し、記入します。

- 5：十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
- 4：十分満足できると判断されるもの
- 3：おおむね満足できると判断されるもの
- 2：努力を要すると判断されるもの
- 1：一層努力を要すると判断されるもの

観点別評価から評定に集約するプロセス

- 5：総計が最高点の90％以上の達成値
- 4：総計が最高点の80％以上90％未満の達成値
- 3：総計が最高点の50％以上80％未満の達成値
- 2：総計が最高点の20％以上50％未満の達成値
- 1：総計が最高点の20％未満

(例1) 国語は、5つの観点があり、その配分の割合は20％ずつになっています。

Nさんの場合： $(90 + 85 + 92 + 88 + 95) \div 5 = 90$ （％）ですので評定は「5」となります。

観 点	達成値	観点別評価	評 定
国語の関心・意欲・態度	90	A	5
話すこと・聞くこと	85	A	
書くこと	92	A	
読むこと	88	A	
言語事項に関する知識・理解	95	A	

(例2) 数学は、4つの観点があり、その配分の割合は25％ずつになっています。

Nさんの場合： $(80 + 82 + 83 + 83) \div 4 = 82$ （％）ですので評定は「4」となります。

観 点	達成値	観点別評価	評 定
数学の関心・意欲・態度	80	A	4
数学の見方や考え方	82	A	
数学的な技能	83	A	
数量・図形などについての知識・理解	83	A	

※(例1)、(例2)のように観点別評価は同じでも評定は違う場合があります。各観点の評価がオール「A」でも評定が「5」の場合と「4」場合があります。